

一般演題 4 O4-03

東京大学大学院農学生命科学研究科 / 農学部における潜水に係る安全教育の取組み ～日本水中科学協会 (JAUS) プライマリーコース～

○水口裕尊¹⁾ 須賀次郎²⁾ 久保彰良²⁾ 武田 聰³⁾
藤江 聰³⁾ 石見 拓³⁾

[1) 東京大学大学院農学生命科学研究科
2) NPO 法人日本水中科学協会
3) 公益財団法人日本 AED 財団]

【はじめに】

東京大学大学院農学生命科学研究科では、平成 17 年に発生した潜水作業中の事故¹⁾を受けて、潜水活動者にダイバー認定カードの取得、潜水士免許の取得、安全教育の受講を義務付けてきたが、独自に安全教育プログラムを構築することは困難であった。日本水中科学協会（以下、JAUS）は、ダイビングによる安全を追求し、学術研究等に貢献することを目的とした団体であり、JAUS の構築したプライマリーコースを元に、日本 AED 財団の協力のもと、当研究科における潜水に係る安全教育プログラム（以下、本プログラム）について検討及び実施をしたので報告する。

【本プログラムの構成】

本プログラムは、1) 溺水の応急処置（半日）、2) 潜水のリスク管理（半日）、3) スノーケリング、スキンダイビング安全教育（以下、スノーケリング等安全教育：半日）、4) スクーバ安全教育（3 日）によって構成される。1) 溺水の応急処置では、日本 AED 財団の PUSH 「胸骨圧迫+AED」に人工呼吸を追加して実施した。2) 潜水のリスク管理では、リスクを物理的要因、生物的要因、環境的要因、人的要因、その他の要因の 5 種類に区分し、それぞれについて事故事例とともに概説するとともに、リスク管理の概念やリスクアセスメントの考え方を取り入れることとした。3) スノーケリング等安全教育では、器材の装着方法や適切なスノーケルの使用法など 10 項目について訓練及び確認した。4) スクーバの安全教育については、JAUS プライマリーコースを準用する形で、準備コースで主に初級認定ダイバーレベルの技能と泳力の確認を行った後、基礎理論の開発セッション、及び、実習では準備コースの条件に加えて、ストレス管理とレスキュー法などを組み込んだ併せて 20 項目のサイエンスダイビング技能の習得及び確認を行った。

【結言】

JAUS プライマリーコースに、CPR 訓練及びリスク管理に係る知識開発を組み込むことにより、事故防止から事故時の措置までの一連の知識及びスキルを習得可能なプログラムが構築できたと考える。但し、本プログラムには現時

点では、潜水活動により引き起こされる疾病等の情報提供が無く、また、他大学等の潜水活動者においても納得できる内容に洗練する必要があると考えられ、テキストの作成等を通じて、科学潜水を行う研究者が誰でも受講できる体制を構築することが必要であろう。

参考文献

- 1) 国立大学法人東京大学潜水事故全学調査委員会：東京大学における潜水作業中の死亡事故について事故原因究明及び再発防止のための報告書. 2006.